

# 特定外来生物「ツマアカスズメバチ」の侵入

公益社団法人 東京都ベストコントロール協会 理事 葛西 晋平

平成24年10月、長崎県対馬市上県町佐護において、日本で初めてツマアカスズメバチが発見・捕獲された。翌年には56か所の巣が発見され、対馬市に定着していることが確認されたのであった。その後、同27年9月に福岡県北九州市に於いて営巣が確認され、今まで対馬市にのみ生息していると思われていた本種が本土にも上陸していることが判明した。

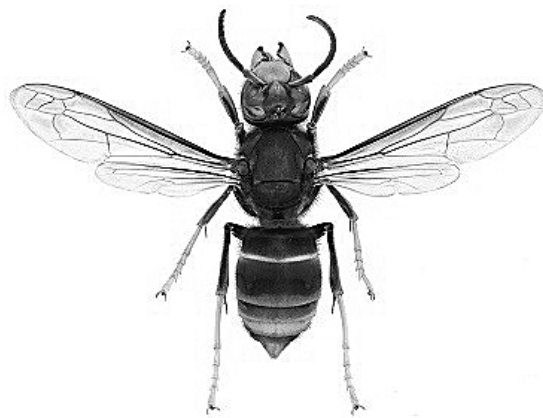
ツマアカスズメバチは「アルゼンチンアリ」「セアカゴケグモ」などと同じ特定外来生物に指定されており、生態系への影響や養蜂などの産業への影響、人体への刺傷被害などが懸念されている。

特定外来生物とは、人間の活動により他地域から持ちこまれた外来生物のうち、生態系や農林水産業、人の生活に悪影響を及ぼす恐れのある生物で、法律により指定される。特定外来生物に指定されると飼育、栽培、保管、運搬が原則禁止となる。

ではツマアカスズメバチとはどのようなハチなのか、発表されている様々なデータに基づき説明していく。

分布域(原産国)は、中国・台湾・東南アジア・南アジアと幅広く、定着実績として日本のみならず、韓国のほかヨーロッパ地域(フランス・スペイン・ポルトガル・ベルギー・イタリア)にて確認されている。本種の拡散速度は速く、韓国では年間10～20km、ヨーロッパに於いては単純計算で年間100kmの速さで分布を拡大(地理的な要因)していると報告されている。

形態については、体は全体的に黒っぽく、腹部の先端と脚の先がオレンジ色になっているのが目立つ特徴。大きさは20～30mm前後でキロスズメバチなどと同程度の大きさ。在来スズメバチより大型の巣が多数確認されていることから繁殖力が高いと考えられる。また女王蜂は越冬後、土中や低木の中など閉鎖的な環境に於いて営巣を開始し、コロニーが大きくなると働き蜂と共に樹上の高い位置(10～15m前後)などに引っ越しする。韓国の都市部などではマンションの壁などに営巣する例が報告されている。



食性は主に昆虫類(ミツバチ・アシナガバチ・毛虫・蝶・ハエ・トンボ・クモ等)である。このように生態系の上位に属する広食性の捕食天敵であるため、生態系への影響が大きい生物であることが示唆される。特にミツバチを好みの獲物とし、ミツバチの巣に張り付いて、非常に執拗に働き蜂を襲う。ただ、巣内の女王蜂や幼虫は襲わないため、巣がいきなり壊滅する事は無いと言う。

生物的防除(※1)を研究している九州大学大学院上野准教授は「今後の対応として、トラップ設置や目視調査を行い、分布状況や密度を把握する必要がある、予想される侵入先の港周辺(北九州市と下関市)で集中的な調査を行うと同時に、福岡県と山口県でも広く注意喚起を行うべきである(荷揚げされた貨物と共に運ばれ、港から離れた場所に持ち込まれてしまった個体が存在する可能性がある)。外来種の駆除に於いては、初動がその後の結果を左右するので、個体数が増える前に撲滅するのがベストな対応であり、増えてしまった後では人でもコストも掛かる」(平成27年9月)と述べている。

また、(公社)日本ペストコントロール協会は(→都道府県協会)外来生物法に基づいた対策の為、ハチ駆除対応時におけるツマアカスズメバチ発見に関わる情報提供を環境省から依頼されている。駆除作業時において、ツマアカスズメバチを確認した場合は(公社)東京都ペストコントロール協会事務局までご一報をお願いしたい。

※1 昆虫の中には、害虫の発生を押さえ込むという役割を果たしているもの(天敵昆虫)が多数存在し、それらをうまく利用することで、害虫の防除をより効果的に行ったり、使用する化学農薬の散布量を減らすことが可能になる。

### (謝辞)

記事作成にあたり、website上で発表している情報を快くご提供して下さった九州大学大学院上野高敏氏に心より感謝いたします。

### (Webによる参考情報)

- (1)上野高敏(2015) Takatoshi UENO 九州大学大学院農学研究院 生物的防除研究施設  
HP掲載 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/ine/ueno/tsumaakasuzumebachi.pdf>
- (2)環境省 HP (2014) ツマアカスズメバチ *Vespa velutina* に関する情報

